



## 水浴びの作法

飯國 有佳子 (いいくに ゆかこ)

本館外来研究員

### 水浴びは陽が傾いてから

ちょうど一〇年前、ビルマ(ミャンマー連邦)の首都ヤンゴンで働いていたわたしは、ある人類学者から自分の調査村に来てみないかと誘われた。人類学に興味をもち始めたころだったので、ふたつ返事でその話に乗し、四月の休暇を利用して村に行った。四月中旬に新年を迎えるビルマでは、約一週間のあいだティンジャンとよばれる水かけ祭りがおこな

れる。村でのティンジャンの様子と新年儀礼が見られることを、わたしはとても楽しみにしていたが、行った時期が悪かった。

四月は一年中でもっとも暑く、そのうえ、村は国内有数の乾燥地帯にあった。気温は四五度を軽く超え、吸う息も吐く息も熱く、うちわで涼をとっても熱風しかこない。まるでサウナのなかにいるような暑さに耐えかねて水浴びをしようとする、「こんな暑いなか、水浴びをした

ら死ぬよ。陽が落ちてからにしない」と、村長の奥さんに止められた。後に自分がフィールドワークをするようになってからわかったことだが、これは心臓発作や脳溢血(のういっけつ)を起こさないための知恵のようだった。

それから七年後、わたしは別の村落で調査することになった。水浴びでまた人びとに取り囲まれるだろうと覚悟はしていたが、以前ほどではなかった。村の親しい女性に「以前、他の村で、わたしが水浴びするのを大勢の人が見に来たね」というと、「きつとその村の人は、あなたが日本人だから『日本流の水浴び』をすることで思っただけでしょう」と笑いながら教えてくれた。このときはじめて、かつて人びとが興味津々に水浴びを見に来た理由がわかったのである。

### 日本流水浴び

陽が傾き始めるころ、村人たちは河や池、井戸など戸外の水辺へと向かい、水浴びをする。特に仕切りがある訳ではないため、裸にはならない。女性の場合、ロンジーとよばれる腰巻を胸まで上げて巻きなおし、その上から水を浴びるのが正しい作法だ。時折、「裸にならずにどうやって体を洗うの?」と聞かれることがあるが、ロンジーの上から石鹸を付けて布も一緒に洗ってしまえば、洗濯にもなつて一石二鳥である。

わたしたちもロンジーをまとって水浴びしていると、徐々に人が集まり、最終的に三〇人以上の人だかりができた。他人の家の井戸を借りていたため文句は言えないが、さすがに若い男性が三メートルほど先の地面にしゃがみ込み、手にごを乗せて見物するのには閉口した。「そんなにめずらしい?」と、立ち去っていくのを期待しながら聞いてみると、彼は深くうなずくだけで、結局最後までそこにいた。現地の人びとの営みを観察しているはずの人類学者が、じつはいちばん観察されているというのはいささか話だ。しかし、この村の人びとは件の人類学者の存在にすでに慣れており、あか

る。村でのティンジャンの様子と新年儀礼が見られることを、わたしはとても楽しみにしていたが、行った時期が悪かった。

「日本流水浴び」とは、ビルマ語で「素っ裸で水浴びする」という意味だ。何故「日本流」が「素っ裸」になるのかというと、第二次世界大戦中ビルマにやってきた日本兵が、素っ裸になって水に飛び込んだからだという。「日本流水浴び」ということばができるほどだから、日本兵が水浴びをする様子は、彼の地の人びとにはよほど衝撃的だったのだろう。たしかに「日本流水浴び」ということばは、日本兵の粗野で野蛮な振る舞いを示す好例としても出されることもある。

### よくない思い出は水に流す

ところが、調査のあいだ、わたしは面と向かって当時のことを非難された経験がない。飢えた日本兵に食べ物をあげたという話や、軍票や日本刀を何とか換金できないかと相談された程度だ。ビルマは比較的早い段階で日本政府の戦後賠償を受け入れていることもあり、戦地になった他のアジアの国々に比べ、対日感情は悪くないものと思いついてきた。

るところなことがないから、近づけるなつて言っていたんだもの。でも、そう言っていたおじいちゃんの冥福を祈りに、ずっとあなたが来てくれていたなんて、妙なめぐりあわせだね」と、彼女は笑いながら言うのだ。

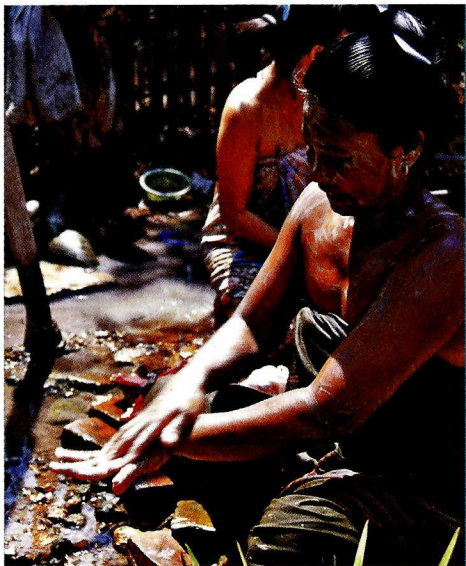
ビルマの人びとときあつていると、彼らは過去のよくないことは水に流し、

よい点だけを思い出として残そうと努めているように感じる。がしばしばある。たとえ水に流せない場合でも、怒みごとを直接当事者に言うことはあまりない。それが悪徳となつて、自分の身に降りかかるのを避けるためだ。むしろ、もはやかわり合わないことで忘れるか、因果応報の結果と解釈して自分の身に引き受

ける。亡くなった彼女の父も、粗野な日本人に対する悪い記憶を封印するために、わたしを避けていたのだろう。「日本流水浴び」に込められた真意を理解するには、長い時間がかかった。ことばの奥にある、語られない微妙な何かを感じとるには、十分な経験が必要だ。

お坊さんを自宅に迎えて初七日の儀礼を済ませ、食事をとっていたときのことだ。毎日通ううちに親しくなった彼女に「おじいさんの生前の姿を、わたし思い出せないのよ」と聞いてみた。すると「そりゃそつよ。あんたが覚えてる訳ないわ。おじいちゃん、日本人を家に近づけ

体を洗う女性



ティンジャンに、年配者の頭や身体を洗ってあげると、功德(くどく)をえられる

旧年の汚れを洗い流すために、水をかけ合うティンジャンという祭りがおこなわれる



村の外は見渡す限りの水田

